

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

- ワクチン接種をしても、①全ての豚が免疫を獲得できるわけではないこと、②全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難であることから、**ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在。**また、**免疫を獲得していても、必ずしも感染を防ぐものではない。**
- ワクチン接種農場においても、未だに豚熱発生が継続していることから、豚熱ウイルスの農場侵入防止のための**飼養衛生管理の徹底**及び豚に異状がみられた場合の**早期通報**が必要不可欠。
- ワクチン接種時期は、**十分な免疫付与率が得られることや感染リスクが高いとされる離乳後の時期までに接種を終えること**等を考慮し、接種時期を検討することが望ましい。

①免疫付与率80%

■ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではない。

- ワクチンの抗体付与率は80~90%

②子豚

■全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難。

㊦ 母乳を通じて母豚から移行する免疫の量が多い期間は、接種してもワクチンウイルスが排除され、ワクチンの効果がない

④ 母豚から移行した免疫の量は漸減していくため、適切な時期にワクチンを接種すれば、効果が発現

- 用法・用量では、1~2か月齢での接種を推奨

⑤ しかしながら、個体によりワクチンの適切な接種時期に差異があることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難

※移行抗体に比べてワクチンによって獲得される抗体の方が発症防御能が強いと考えられます。

